

# カラマツソウ

*Thalictrum aquilegifolium var. intermedium*

キンポウゲ科



カラマツソウ

## 名前の由来

花がカラマツの葉に似ていることから名付けられた。  
漢字名：唐松草

## 形態的特徴

高さ60～80cmになり、茎にある縦の筋が目立つ。葉は多数の小葉に分かれ（3～4回の三出複葉）、小葉は先が浅く3つに裂け、丸みのある手のひら状。葉、小葉の基部にそれぞれ薄膜質の托葉、小托葉がつく。花には花びら（花弁）は無く、白い多数の雄しべが中心部から四方八方に伸びて球形～半球形になり、枝分かれした茎の上に広がって多数つく（複散房花序）。雄しべはやや短い葯の下に、葯との接続部がやや太い、細長い柄（花糸）がつく。果実には4

個の広い翼と柄があるのが特徴。

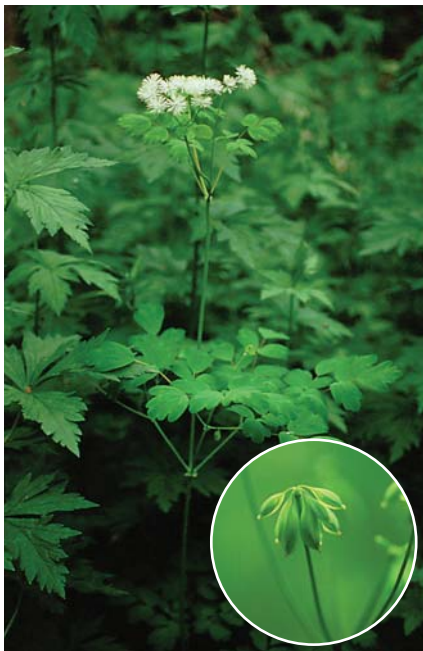


カラマツソウの托葉

## 類似種と見分け方

エゾカラマツ、アキカラマツなど、その他多数のカラマツソウ属。エゾカラマツの托葉、小托葉はカラマツソウに比べて目立たない。また、果実には翼がなく柄もほとんどない。アキカラマツの雄しべは細く長い葯の下に、細長い柄

（花糸）がつく。カラマツソウ属の葉の形はどれもよく似ており、花の形で見分ける。開花期以外での同定は難しい。



カラマツソウ。  
円内は種子。柄が短かく種子は下を向く



類似種のエゾカラマツ。  
円内は種子。柄が長く種子は上を向く



類似種のアキカラマツ。  
円内は種子

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期				■								

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

草花  
(在来種)

草花  
(外来種)

哺乳類

鳥類  
(水辺)

鳥類  
(草原・樹林)  
ワシ・タカ

## 生育環境・分布

低地から山地の草原や、林内の日が差し込む所に生育する。

**分布：**日本固有種のため、国外には分布せず。

国内分布は、北海道、本州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、低地から山地の草原や、林内の日が差し込む所に見られる。

## 生活史

開花時期：6～7月

開花までの年数：不明

寿命：多年草。

## 他生物との関わり

花には虫が訪れる。



カラムツソウ。

## 興味深い話

■カラムツソウは特に種子を拡散させる手段をもたず、熟した種子は重力にしたがって親株の周辺に落ちるだけである。

■十勝地方のアイヌ語では「アリッコ」という。

## 配慮事項

生育している環境全体が重要である。



カラムツソウ。打ち上げ花火のような花は、カラムツの葉にたとえられる

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ

### 参考文献

「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「森林で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」北海道立林業試験場 北海道林業改良普及協会 1998

「日本山野草・樹木生態図鑑」沼田眞 全国農村教育協会 1990

「知里真志保著作集 別巻I 植物編・動物編」知里真志保、平凡社、1976